

# 港のたより

Letter of Port

Vol. 145

2024.3.29



(一社) 寒地港湾空港技術研究センター

COLD REGIONS AIR & SEA PORTS ENGINEERING RESEARCH CENTER



小樽港(写真提供:北海道開発局)

## Contents

### 行事報告

CPC 講演会の開催 ..... 2

CPC 技術講習会の開催 ..... 3

### みなとの ニュース

後志管内地域磯焼け対策意見交換会を開催しました ..... 4

第14回 小樽港フィールド・ラーニング(O.F.L)を開催しました—小樽の近代化遺産を学ぶ— ..... 5

利尻島沿岸のリシリコンブ養殖による CO<sub>2</sub>吸収量を53.9t-CO<sub>2</sub>/年と推計 ..... 6

えりも町沿岸域の天然コンブ漁場における「ブルークレジット認証への取組 ..... 8

みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会 in 沼津が開催されました～「みなとオアシスもんべつ」が優勝！～ ..... 9

令和5年秋の褒章について ..... 10

会員の表彰等について 令和5年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰について ..... 11

### センター通信

令和5年度 助成事業報告 ..... 12

令和5年度 広報委員会の開催について ..... 23

令和5年度 第2回技術委員会の開催について ..... 23

令和5年度 第2回常任委員会の開催について ..... 24

### お知らせ

令和6年度「積雪寒冷地港湾・空港の振興のための助成」に関する募集 ..... 25

定時総会(第12回)開催のご案内(予告) ..... 25

図書貸し出しについて ..... 25

北海道における洋上風力発電に関するポータルサイトの開設について ..... 26

メールアドレス登録のお願い ..... 27

### 編集後記

..... 28

# 行事報告

## CPC 講演会の開催

令和5年11月28日(火)、TKP 札幌駅カンファレンスセンターにおいて、令和5年度CPC講演会を開催しました。コロナ禍の影響もあり約4年ぶりの開催でしたが、約30名の方々にご参加いただき、15:00から2時間ほどの中で寒地土木研究所の平野上席研究

員からのご講演と当センターから3件の研究発表を行いました。今後も当センターの調査研究について広く知っていただくとともに、海と港を取り巻く様々な技術に関する情報提供を目的とするCPC講演会を開催して参りたいと思います。

### 講演 「気候変動による防波堤の安定性低下と順応的対策」

寒地土木研究所寒冷沿岸域チーム 上席研究員 平野 誠治 氏

### 発表 「港湾工事に於いて発生する浚渫土砂の有効活用」

寒地港湾空港技術研究センター 調査研究部研究員 白鳥 夏生

### 「苫小牧港西港区における潜堤式防砂堤の漂砂解析手法」

寒地港湾空港技術研究センター 調査研究部次長 山内 功

### 「北海道水産物の輸出促進に向けた取り組み」

寒地港湾空港技術研究センター 第3調査研究部長 田中 淳



講師(平野 誠治 氏)



発表者(白鳥 夏生)



発表者(山内 功)



発表者(田中 淳)



会場の様子



## CPC 技術講習会の開催

令和5年12月12日(火)、苫小牧市文化交流センター(アイビー・プラザ)2階の講習室において、令和5年度CPC技術講習会を開催しました。コロナ禍の影響もあり約4年ぶりの開催でしたが、室蘭開発建設部、苫小牧港管理組合、建設会社及び調査設計会社などから約50名の方々にご参加いただきました。15:00から2

時間の講習会では、(株)クマシロシステム設計の阿部島 解析設計部長からのご講演と当センターから3件の研究発表を行いました。今後も当センターの調査研究について広く知っていただくとともに、海と港を取り巻く様々な技術に関する情報提供を目的とするCPC技術講習会を各地で開催して参りたいと思います。

### 講演 「ICT 計測機器を用いた効率的な水中部点検」

クマシロシステム設計 解析設計部長

阿部島 直哉 氏

### 発表 「港湾工事において発生する浚渫土砂の有効活用」

寒地港湾空港技術研究センター 調査研究部研究員

白鳥 夏生

### 「苫小牧港西港区における潜堤式防砂堤の漂砂解析手法」

寒地港湾空港技術研究センター 調査研究部次長

山内 功

### 「北海道水産物の輸出促進に向けた取り組み」

寒地港湾空港技術研究センター 第3調査研究部長

田中 淳



講師(阿部島 直哉 氏)



発表者(白鳥 夏生)



発表者(山内 功)



発表者(田中 淳)



会場の様子



# みなとのニュース

## 後志管内地域磯焼け対策意見交換会を開催しました

小樽開発建設部 小樽港湾事務所 第2工務課

令和5年10月31日(火)、管内地域磯焼け対策意見交換会を開催しました。近年はコロナ禍のため書面開催やweb形式でしたが、4年振りに対面形式で開催しました。後志総合振興局管内の古平町、積丹町、寿都町、東しゃこたん漁協、寿都町漁協、寒地土木研究所水産土木チーム、小樽開発建設部及び北海道大学山下名誉教授の全25名の参加となりました。

小樽開発建設部からは、小樽港湾事務所第2工務課の佐藤事業専門官により「これまで・これからの磯焼け対策」と題し、磯焼けの変遷や磯焼けの原因、これまでの藻場造成・磯焼け対策事例、今後の磯焼け対策としては北海道の港湾・漁港の技術開発ビジョンを踏まえた検討やブルーカーボンへの取組の重要性等を報告しました。

寒地土木研究所からは、水産土木チームの本山主任研究員により「効率的な藻場分布調査に関する研究」と題し、水産土木チームの研究内容のご紹介、空中および水中ドローンを活用した高精度で効率的な藻場分布調査手法や調査の具体的な事例、また、画像解析による海藻現存量の推定手法を報告いただきました。

各地域における取組みとして、古平町からは、産業課の山本水産係主任により「古平の藻場保全活動」と題し、ウニの食圧を抑制するためのウニの密度管理

事業の活動状況や、ビバリーユニット(鉄鋼スラグと腐植土)による海域への海藻類に必要な栄養分を供給する取組事例と効果を報告いただきました。

続いて、積丹町からは、農林水産課の水鳥指導員により「地元積丹町のウニ漁業と藻場造成」に関するプロモーション動画を紹介した後、磯焼けに悩む積丹町において、ウニ漁業の状況や、海藻の食害となるウニ除去、コンブ母藻ロープの設置、施肥による海域への栄養塩供給等の活動状況や、廃棄物であるウニ殻再利用によるコンブの増産、ウニ殻による施肥の開発など、循環型再生産への取組を報告いただき、最後に、寿都町からは、産業振興課の櫻井水産係長により「寿都町における磯焼け対策事業」と題し、近年の磯焼け対策としての施肥事業の取り組み、空撮による施肥効果が報告されました。また、近年の磯焼けの要因分析としてウニの食圧、海藻の種の不足、栄養塩の不足を上げ、今後の対策として、既存の藻場保全、継続した施肥活動、食圧生物(ウニ、小型巻貝)の密度管理、母藻育成等が重要である事を報告いただきました。

その後、意見交換を行い、各参加者からは各種取り組み内容の確認や、今後の現地調査の進め方に対する意見が出され、今後の磯焼け対策を進める上で大変有意義な会議となりました。



意見交換の状況



発表の状況

## 第14回 小樽港フィールド・ラーニング(O.F.L)を開催しました —小樽の近代化遺産を学ぶ—

北海道開発局 小樽開発建設部 小樽港湾事務所

令和5年12月13日(水)、小樽港湾事務所において第14回小樽港フィールド・ラーニングを開催しました。

小樽港フィールド・ラーニングは、小樽築港開始時の計画、調査、設計、施工を始め我が国初の近代築港の計画、築造における廣井勇博士(初代小樽港湾事務所長)の工学の考え方等を学び、港湾技術者としての意識・技術・知識、港湾を含む社会資本整備の計画・説明力等の向上に効果的であり、小樽港(Otaru)で実物を見ながら(Field)習得(Learning)する意義は大きいと考え、平成23年度から開催しています。

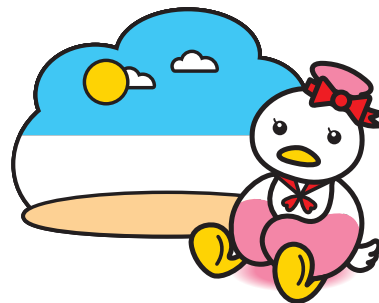
今回は、2名の講師を招いて講演を行い、北海道開発局職員、関係市町職員、建設会社、コンサルタントなどの関係者約90人(対面:約30人、Web:約60人)が参加しました。

1つめの講演は、小樽港湾事務所の早川所長により「北防波堤の設計に思いを馳せる～平成16年度の断面決定までを振り返る～」と題し、平成15年度～16年度に設計係長として北防波堤改修設計に携わり、廣井勇博士が設計した北防波堤の構造上の特徴を現地調査や水理模型実験から紐解き、その結果を踏まえて改修設計を行った際の当時の設計思想や悩みなどについてご講演いただきました。

続いて、2つめの講演は、小樽運河が完成してから100年を迎えたことから、小樽市総合博物館の石川館長により「『運河』100年と小樽港～斜陽の象徴から再生のシンボルへ～」と題し、小樽運河が誕生した背景や小樽港ふ頭整備によりその使命に終わりを告げ、荒廃していく変貌などについて当時の絵や写真とともにご講演いただきました。

石川館長の講演は、「当時の小樽運河は、舁荷役を念頭において利用されていたことや、廣井勇博士の助言を受けながら小樽港の整備とともに運河も整備されたこと、その後、小樽運河と石造・煉瓦倉庫群も含めた保存活動の歴史等に触れ、今後の活用について考えていく必要がある。」との内容でした。

今回の小樽港フィールド・ラーニングでは、現在、改良工事を進めている北防波堤の設計思想や小樽運河が果たしてきた役割など、小樽市発展の礎となった近代化遺産を学ぶ良い機会となりました。



小樽港湾事務所 早川所長



小樽市総合博物館 石川館長

# 利尻島沿岸のリシリコンブ養殖による CO<sub>2</sub> 吸収量を 53.9t-CO<sub>2</sub>/年と推計

北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所

本誌 Vol.144(2023.11.24)では、「リシリコンブの養殖漁場におけるブルーカーボン生態系による CO<sub>2</sub> 吸収量の調査」を寄稿したところです。この度、現地調査が終了し、CO<sub>2</sub> 吸収量を推計したため報告します。

りますが、リシリコンブ養殖は2年生のため1年目と2年目の養殖工程を踏まえ残存率の使い分けが重要となります。調査の過程でJBE(ジャパンプルーエコノミー技術研究組合)関係者に残存率の適用のほか文献値の設定を確認し、図-1の通り整理できました。

## ■ CO<sub>2</sub> 吸収量の算定式

CO<sub>2</sub> 吸収量の算定式は手引き<sup>\*1</sup>の算定式が根拠とな

※1 Jブルークレジット<sup>®</sup> 認証申請の手引き—ブルーカーボンを活用した気候変動対策 ver.2.3 令和5年8月ジャパンプルーエコノミー技術研究組合

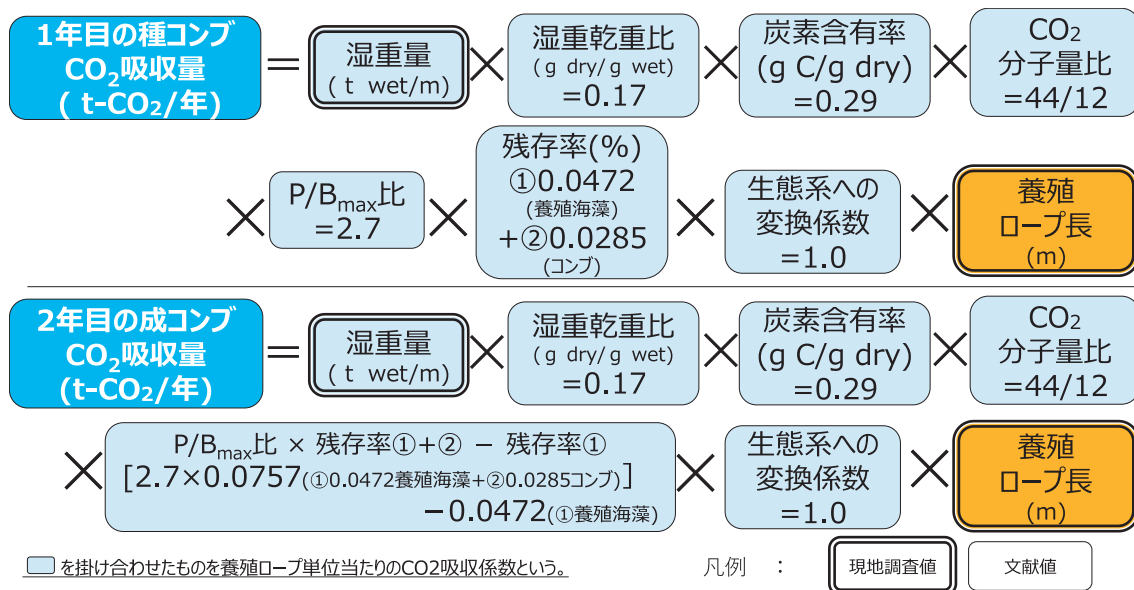


図-1 CO<sub>2</sub> 吸収量の算定式

表-1 文献値の概要

パラメータ	概要
P/Bmax比 <sup>*2</sup>	年間生産量(生育する間に枯死・流出する生産量)と現存量の比
生態系への変換係数	海藻以外の微細藻類を含む植物プランクトン(一次生産者)の考慮
残存率(%)	残存率①(生産される藻体に対する藻場内や藻場外に堆積する炭素の割合) 残存率②(海中に貯留される難分解性溶存有機炭素)
湿重量乾重比 <sup>*2</sup>	海藻の湿重量に対する乾燥重量の比
炭素含有率 <sup>*2</sup>	乾燥した海藻に含まれる炭素の含有率
CO <sub>2</sub> 分子量比	CO <sub>2</sub> とCの分子量比

※2 複数の文献から平均化したパラメータ

1年目の種コンブは、7月に湿重量を調査するものの11月まで海中に残置し、その後陸揚げさせるため、藻場が吸収した炭素のうち、藻体として藻場内や深海に堆積する炭素(残存率①)と海中へ貯留される難分解性有機炭素(残存率②)によりCO<sub>2</sub>吸収が期待できま

す。一方、2年目の成コンブは7月に全て刈り取り水揚げされ、これ以降海中に残置されなくなるため、1年目と同じ湿重量の場合でもCO<sub>2</sub>吸収係数が小さく推計されます。

## ■ 2年生リシリコンブの養殖工程と現地調査結果

CO<sub>2</sub> 吸収量推計にあたり、ベースラインの考え方が1年目と2年目で異なります。

1年目は遊走子が付着しただけのロープを沖だしすることから、コンブの湿重量は「0」です。これをベースラインとし、そこから1年後ロープに生育した種コンブ(図-2①)の湿重量がCO<sub>2</sub> 吸収量の推計対象となります。

2年目は種コンブをつけたロープを沖だしすることから、ベースラインは「沖だし時の種コンブの湿重量(図-2③)となります。そのため、「生育したコンブの湿重量(図-2②)」から「沖だし時の種コンブの湿重量(図-2③)」を差し引く必要があります。そのため、各段階のコンブについて調査を行いました。

調査に当たっては、まずコンブの成長に応じて最適な調査時期を選定しました。①種コンブと②成コンブは最大に繁茂する7月に、③2年目に残す種コンブは2年目に向け再生する11月の調査時期としました。

①種コンブの調査は種コンブ養殖場所へ漁船で移動し、ロープ1m分のコンブを刈り取り陸上に揚げ、コンブの湿重量などの計測を行いました。②成コンブの調査は1本のロープに種コンブ4~5本を1株として一定の間隔で縛り付け、本養成された成コンブ6株分を刈り取り、湿重量や本数などを計測し、それを1m当りに換算しました。③2年目に残す種コンブは30本の湿重量を計測し、1m当りに換算しました。その現地調査結果を図-3に示します。

## ■ 2年生リシリコンブのCO<sub>2</sub> 吸収量の推計

現地調査結果と上述したCO<sub>2</sub> 吸収量の算定式(図-1)を用い、2年生のリシリコンブのCO<sub>2</sub> 吸収量を推計したところ、CO<sub>2</sub> 吸収係数が1年目種コンブでは563(g-CO<sub>2</sub>/m/年)、2年目成コンブでは228(g-CO<sub>2</sub>/m/年)という結果になりました。

ロープ延長については、1年目の種コンブの養殖ロープ長は、遊走子を含む水槽にロープを漬ける際に、宗谷地区水産技術普及指導所が漁業者に聞き取りを行い、水槽へ投入したロープ長を確認しており、その集計を種コンブの養殖ロープ長とし、利尻島全域の合計延長は41,230mでした。2年目の成コンブ養成用のロープ長は、利尻漁業協同組合の原本謄写による「特定養殖共済契約通知書」から整理し、その延長は134,780m

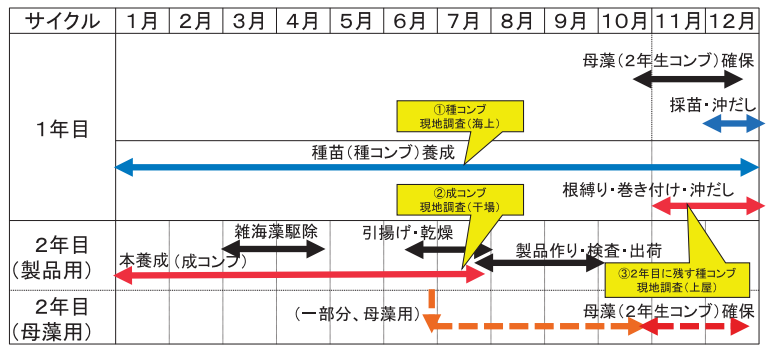


図-2 リシリコンブの養殖工程

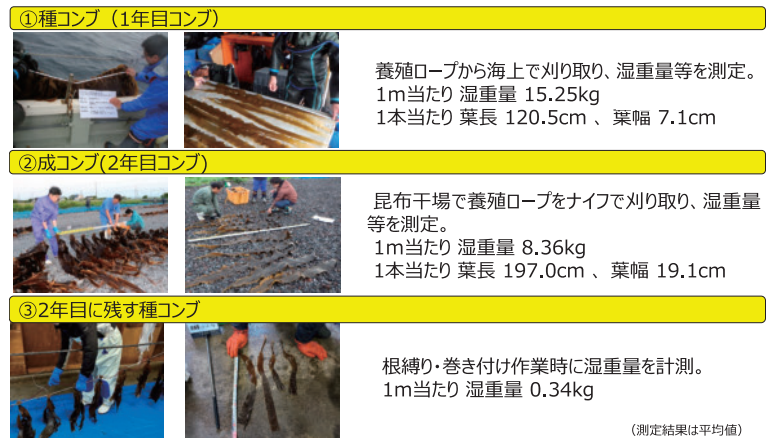


図-3 リシリコンブの現地調査結果

でした。

以上より、利尻島全域のCO<sub>2</sub> 吸収量は53.9(t-CO<sub>2</sub>/年)と推計できました。

$$\begin{aligned}
 \text{CO}_2\text{吸収量 (t-CO}_2\text{/年)} &= \text{CO}_2\text{吸収係数 (t-CO}_2\text{/m/年)} \times \text{沿岸全域の養殖ロープ(m)} \\
 \text{(内訳) 種コンブ(1年目)} &= 563 \times 10^{-6} \text{t-CO}_2\text{/m/年} \times 41,230 \text{m} \\
 \text{成コンブ(2年目)} &= 228 \times 10^{-6} \text{t-CO}_2\text{/m/年} \times 134,780 \text{m} \\
 &= \mathbf{53.9 \text{ (t-CO}_2\text{/年)}}
 \end{aligned}$$

図-4 CO<sub>2</sub> 吸収量算定結果

なお、ブルーカーボン生態系によるCO<sub>2</sub> 吸収量53.9t-CO<sub>2</sub>/年を、森林の単位面積当たりのCO<sub>2</sub> 吸収量<sup>※3</sup>で面積換算すると単純計算で23.4haの森林面積に相当します。

※3 「日本国温室効果ガスインベントリ報告書2023」を参考に、2021年度の森林面積とCO<sub>2</sub> 吸収量から単位面積当たりのCO<sub>2</sub> 吸収量を推計し今回のCO<sub>2</sub> 吸収量(53.9t-CO<sub>2</sub>)を森林面積に換算

## ■ まとめ

この調査を通じて、CO<sub>2</sub> 吸収量の算出を「養殖ロープ1m当たりのコンブの湿重量」と「養殖ロープ延長」から推計する簡易な方法として実施、整理できました。今後のブルーカーボンの取組の拡大が期待されます。

# えりも町沿岸域の天然コンブ漁場における Jブルークレジット認証への取組

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

ゼロカーボン北海道推進計画では、温室効果ガス吸収源対策として「ブルーカーボンに資する取組の推進」を掲げています。

えりも町沿岸域では、漁業者が天然コンブの生産量を増加させるため雑海藻駆除を実施しており、増加するコンブのCO<sub>2</sub>吸収量を定量化しクレジット化することにより、気候変動対策と水産振興の同時推進が期待できることから、昨年6月より、えりも町、えりも漁業協同組合、北海道大学、北海道開発局、寒地土木研究所の5者で「えりも沿岸域におけるブルーカーボン生態系によるCO<sub>2</sub>吸収量推計検討会」を開催してきました。

この度、令和6年1月17日に、(第3回・最終)を開催しましたので結果を報告します。

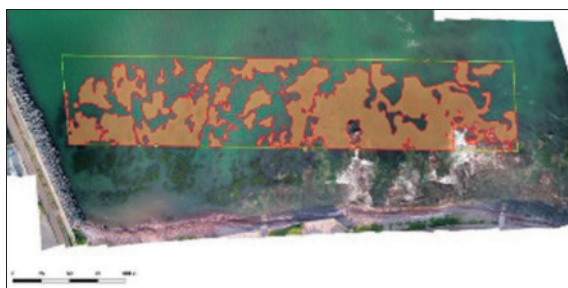
検討会では、えりも町より、潜水調査による海藻現存量の測定、ドローン空撮調査による藻場面積の測定を行い、CO<sub>2</sub>吸収量として70.6t-CO<sub>2</sub>/年と算出されたこと。また、えりも町、えりも漁業協同組合、えり

も岬の緑を守る会の3者により、Jブルークレジット<sup>※</sup>の認証申請を行ったところ、調査の不確実性を踏まえ、約86%である60.4t-CO<sub>2</sub>が前年12月末に認証されたことの報告がありました。

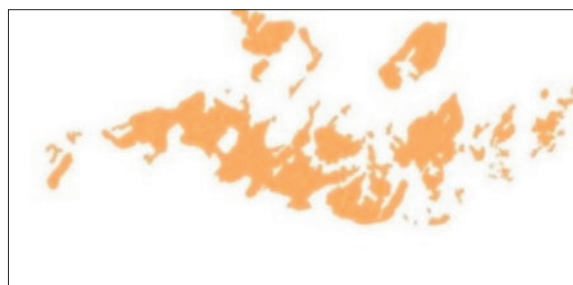
また、ドローンの空撮画像から目視で藻場面積を特定するには、労力と経験が必要となることから、北海道大学大学院 情報科学研究所の小川貴弘教授より、ドローン画像からAI画像解析を行い効率的に藻場面積の判別する手法の開発状況についての報告がありました。

現在、えりも町では、ブルーカーボンに関して、町職員による授業の開催や子ども議会での質疑が行われるなど関心が広がっています。このように、地球規模の環境問題の教材としても効果的であり、加えて、認証されたJブルークレジットを、JBEにおける公募により企業が購入することで、企業価値を高めるとともに、このような取組はJブルークレジットの価値を向上させる効果も見込まれます。

※Jブルークレジット：企業が努力で削減できないCO<sub>2</sub>排出量は、他の場所で削減したCO<sub>2</sub>吸収量をクレジットとして購入して埋め合わせる「カーボンオフセット」という考え方があり、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合(JBE)では、ブルーカーボンを定量化し取引可能なクレジットにしたものを「Jブルークレジット」としてカーボンオフセットの取引に利用する仕組みを構築している。



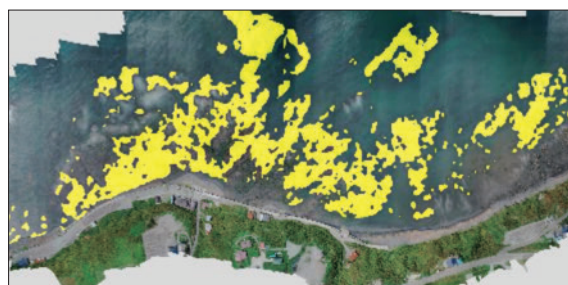
ドローンによる藻場の空中撮影と  
目視による藻場の特定



ドローン画像から目視による藻場の特定  
(正解藻場領域)



AI  
学習  
↓  
改善



AIによる推定結果



# みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会 in 沼津が開催されました ～ 「みなとオアシスもんべつ」 が優勝！～

寒地港湾空港技術研究センター

全国の海の幸を使ったグルメが集う「第14回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会」が令和5年10月28日、29日の2日間にわたり、市政100周年を迎えた静岡県沼津市の沼津港で開催されました。

北海道から、みなとオアシス函館、みなとオアシス室蘭、みなとオアシスりしりとう・くつがた、みなとオアシスわかかない、みなとオアシス苫小牧、みなとオアシスもんべつの6団体など全国から過去最多の34団体が出店し、それぞれの地域自慢の海の幸の魅力をアピールしました。特に北海道のブースには開店前からグルメを求める客の長い列ができ、人気の高さを見せていました。また、天候にも恵まれ、両日合わせて10万人が来場し、吹奏楽コンサートやお笑いライブ、トークショーなどのステージイベントを楽しみました。

函館からは「いかめし」、室蘭からは「ほたてチリバーガー」、くつがたからは「利尻タコカツ」、わかかないからは「宗谷の塩ホタテラーメン」、苫小牧からは「ホッ

キカレー」、もんべつからは「ホタテステーキ」、が出品され、エントリーした34団体のうち、投票により優勝がもんべつ、室蘭及びりしりとう・くつがたが優秀賞を受賞しました。

優勝したみなとオアシスもんべつの竹内珠己さんはよしもと芸人の間寛平師匠から優勝カップを受け取り、「優勝できてとても嬉しい。去年は準優勝で悔しい思いをしたがリベンジを果たせた。」とコメントしました。

令和6年度の全国大会は鳥取県境港市で開催される予定です。



大会ポスター



北海道各地のブースには長い列



南海キャンディーズしずちゃんのトークショー



間寛平さんから優勝カップを受け取る竹内珠己さん



表彰式の様子

## 令和5年秋の褒章について

寒地港湾空港技術研究センター

北海道開発局では、海の利用・開発、海洋環境保全に対する国民の理解と協力を得るため、港内、海浜等の美化活動に貢献した個人や団体を「海をきれいにするための一般協力者」として表彰しています。

令和5年秋の褒章受章者が令和5年10月20日(金)

に決定され、この度、当センター会員の「三協建設株式会社」が緑授褒章(褒状)を受章されることとなり、11月9日に(木)に国土交通省10階共用大会議室にて伝達式が行われました。

### 【社会奉仕活動功績】

受章者：三協建設株式会社  
(留萌市末広町)

(団体の概要)

設 立 昭和31年4月25日

社員数 34名

代表者 代表取締役 堀松 秀樹 氏

(活動の内容)

平成14年4月から、年1回、留萌市内の観光施設である「ゴールデンビーチるもい」において、毎回約40名で海岸一帯と駐車場、沿道など1km余りの範囲のゴミ拾い等の清掃奉仕活動を21年間継続して実施しています。

(表彰歴)

平成24年7月 北海道開発局長表彰「海をきれいにするための一般協力者」

令和4年7月 国土交通大臣表彰「海をきれいにするための一般協力者」



## 会員の表彰等について

### 令和5年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰について

寒地港湾空港技術研究センター

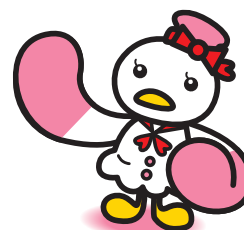
令和5年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰の受賞者が、令和5年5月に水産庁から公表されました。この表彰は、漁港漁場関係事業への理解を深めるとともに、漁港漁場建設技術の向上を図り、漁港漁場関係事業の円滑な実施に資することを目的として、他の模範に足る功績を残した請負者に対して与えられるものです。

受賞企業は全国の漁港漁場整備に携わった中から、

農林水産大臣表彰に3社、水産庁長官表彰に9社選定されました。当センター会員企業からは、農林水産大臣表彰に(株)森川組(本社：函館市 森川基嗣代表取締役社長(現 会長))、水産庁長官表彰に(株)吉本組(本社：岩内町 吉本貴昭代表取締役社長)及び(株)富士サルベージ(本社：函館市 須田新崇代表取締役)が受賞されました。5月11日農林水産省水産庁長官室にて授賞式が行われました。



受賞式の状況(写真提供：北海道開発局水産課)  
(前列右から二人目が森川基嗣代表取締役社長(現 会長)、前列から2列目右から一人目が吉本貴昭代表取締役社長、前列から2列目右から二人目が須田新崇代表取締役)





2024年の元日を迎えた直後から、能登半島地震、羽田空港の衝突事故が起こり、騒然とした年明けとなりました。はじめに、地震や津波、事故によってお亡くなりになりました方々のご冥福をお祈り

し、被災された方々にお見舞い申し上げます。

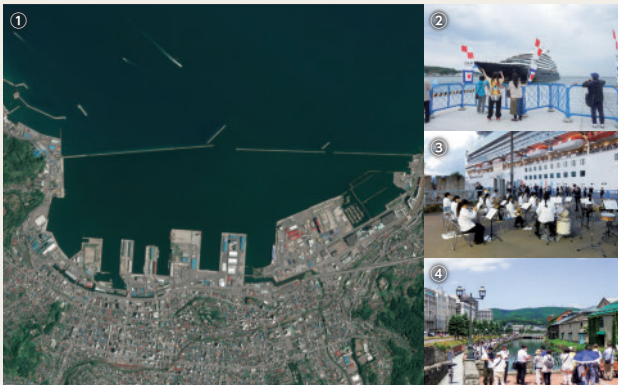
震度Ⅶの地震で、石川県の海岸では最大約4mも地盤が隆起し漁港の海底面が露出するなど、漁業に関しては壊滅的な被害を受けたと聞いており、復旧の目処もつかないという様なやるせないニュースも入ってきております。

今回の震災でも、国が当該の県や市に代わってインフラを復旧する代行工事が始まるとのこと。私自分も13年前の東日本大震災にて被災を受けた東北地方の宮城県に代わり、水産庁職員として石巻漁港と気仙沼漁港の代行

工事を担当させていただきました。代行工事は相手側から要望された範囲の復旧が可能となるだけの、予算確保から復旧業務・工事の発注、現場監督、完成検査までを全て代行チームで行います。特に予算の交渉では、23時に財務省への説明をセットして、0時に呼ばれて財務省へ赴き廊下で待機、1時から担当係長と主任へ説明開始、その後の打ち合わせも終わってタクシーで家に着いたらもう空が明るかった記憶があります。

一方、道内は新型コロナの猛威も落ち着き、円安も相まってインバウンドにより活気が戻ってきた様な感じがあります。すすきのの中核を担うビルCOCONOSUSUKINOも段階的に開業し、平日の昼間でも多くの人が集まるようになりました。4年ぶりに規制無しでの開催となる雪まつり時期、街中には様々な国の言葉が飛び交っています。そして千歳市には、次世代半導体の主導権を握るべくラピダスが進出してきました、道内経済の起爆剤として各方面から期待されています。自分のふるりの北海道、これからも発展を見守っていきたいと思います。(T.I)

- 表紙の写真：①小樽港の全景  
②クルーズ船の受入  
③ブラスバンドによるお見送り  
④にぎあう小樽運河



小樽港は、北海道における政治・経済の中心地の札幌を始めとする道央地域を背後圏に日本海側流通拠点港として重要な役割を担っている。本港は、石狩炭田の開発に伴い、明治13年手宮～札幌間に鉄道が敷設されたことにより、石炭の積出港として整備され、明治32年の開港以来、平成9年で100周年を迎え北海道の開拓の拠点として今日まで発展して

きた。その後、戦後の経済統制、商圈の喪失などにより一時的に減勢を余儀なくされてきたが、昭和23年の貿易の再開、昭和40年代の新潟・敦賀・舞鶴への長距離フェリーの就航により港湾取扱貨物も逐次増加してきた。平成9年には勝納ふ頭に-13mの大型岸壁が整備(改良)され、大型の穀物船の入港が可能となり、平成12年には、港町ふ頭の-14m岸壁が暫定-13mで供用を開始し、道央圏への貨物の輸送コスト縮減、安定供給が期待される。また、本港はウォーターフロントの整備として、平成2年にマリナーの供用を開始、運河を活用した緑地等、小樽築港駅周辺の再開発など鋭意整備を進めており、平成11年には、関税法による開港100周年を迎え、今後も蓄積された港湾機能を生かした発展が期待されるなか、平成23年に日本海側拠点港(外航クルーズ(背後観光地クルーズ))に選定された。外貿航路としては、平成14年に中国とのコンテナ定期航路が開設され、平成25年にはウラジオストクとのRORO定期航路が開設されている。平成27年にはコンテナ航路の改編により、上海に加え青島、大連が直接結ばれることで港湾サービスの向上が図られている。近年は、駅や観光エリアに近い第3号ふ頭において、クルーズ船の受入環境整備が行われている。

## 港のたより 【Vol.145】 2024年3月29日

(一社)寒地港湾空港技術研究センター

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号 セントラル札幌北ビル5階  
TEL(011)747-1688 FAX(011)747-0146 <http://www.kanchi.or.jp>

